

文教大学情報学部 社会調査ゼミナール研究報告

大学生の恋愛観と影響する諸要因

2006年2月

情報学部 広報学科 3年

橋本耕平

## 目次

### 1 章 研究概要・・・1

#### 1.1 背景と目的

#### 1.2 研究の方法

##### (1) 進捗経緯

##### (2) 調査の概要

#### 1.3 結果の概要

### 2 章 研究の成果・・・2

#### 2.1 標本抽出に関する記述

#### 2.2 性別による恋愛経験や恋愛観の差・・・3

・現在の恋人の有無・・・3

・今までに告白された人数・・・3

・希望の交際のきっかけ・・・4

・異性に好意を寄せる際の重要項目・・・4

・異性に人気のある同性のイメージ・・・8

・2.2節のまとめ・・・10

#### 2.3 告白された人数による行動や恋愛観の違い・・・10

・被告白人数別の単独行動性・・・11

・被告白人数別の恋愛ゲーム指向性・・・11

#### 2.4 異性交際人数による恋愛観や行動の違い・・・12

・異性交際人数別の一目ぼれ指向・・・12

・異性交際人数別の異性に人気のある同性のイメージ・・・13

#### 2.5 自尊心の高低による恋愛観や行動の違い・・・14

・自尊心高低グループ別の初対面对話指向・・・15

・自尊心高低グループ別に見た異性に好意を寄せる際の重要項目・・・16

### 3 章 まとめと今後の課題・・・18

### 参考文献・・・19

### 単純集計結果・・・20

## 1章 研究概要

### 1.1 背景と目的

恋愛は人間にとって永遠のテーマである。古今東西の小説家や作家という者のほぼ全てが物語に恋愛を絡ませている。昨今では「純愛」がブームになり「世界の中心で愛を叫ぶ」「電車男」「冬のソナタ」などの作品がベストセラーや高視聴率をとっている。昔ではギリシャ神話に自分の作った石造に恋をしてしまうという話もある。このように現在に至るまでも小説や劇の主題になることが多く、テレビでは恋愛を題材にした番組が軒を並べ、男女の恋愛を歌った曲は数知れずある。このようなものが数多くあるということは、それほど人は恋愛に関心があるのだといえる。人々が集まる場所毎日のように恋愛に関する話が飽きることなく繰り返し話される。生き物の種の保存本能などということ抜きに考えても恋愛を人間の人生と切り離して考えるのは不可能である。

私は、性別、被告白人数、交際人数、自尊心の高低の差が恋愛観に影響を与えると考え、この項目を研究の軸として調査を行った。

### 1.2 研究の方法

#### (1) 進捗経緯

- ・ 6月：研究テーマ決定。
- ・ 9月：調査票最終案完成。
- ・ 10月：学内で調査票配布、回収。
- ・ 11月：回収した調査票の集計。
- ・ 12月：研究結果提出。

#### (2) 調査の概要

調査対象者は文教大学の学生の学生に授業中に配布した。配布数はコミュニケーション論Bの授業102票、回収数は100票、有効回答数は99票。コンピュータと通信の授業での配布数が42票、回収数40票、有効回答数40票。

- ・ 主な質問項目：現在までに付き合った異性の人数
- ・ 現在までに告白されたことのある異性の人数
- ・ 異性に好意を寄せる際の重要性
- ・ 希望の交際のきっかけ
- ・ 異性に人気のある同性のイメージ
- ・ 当てはまる恋愛感
- ・ 生活の動向
- ・ 趣向の動向
- ・ ローゼンバークの自尊心測定尺度を利用した自尊心を図る項目

### 1.3 結果の概要

性別によって現在の恋人の有無や現在までに付き合った人数異性に好意を寄せる際の重要性、交際のきっかけ、異性に人気のある同性のイメージ初対面の相手との得手不得手、流行を気にする、等の問題に差が発生することが数値として実証することができた。

それに次いで付き合った人数や異性に告白された人数によっても異性に人気のある同性のイメージや、異性に好意を寄せる際の重要性に差異が発生することがわかった。自尊心を4つの因子に定義することにより被告白人数によって項目ごとに違いが現れることがわかった。

## 2章 研究の成果

### 2.1 標本抽出に関する記述

今回の回答標本は無作為抽出で作成していないため、母集団から見て標本に偏りが生じる可能性がある。そこで回答者の分布を、表2.1.1と表2.1.2で確認しておく。表2.2.1の学年別の分布では1年生19.3%、2年生72.1%、3年生5.0%、4年生3.6%で、2年生が回答者の7割を越える結果となった。また、性別の分布では男性47.9%、女性52.1%と女性の回答者が若干多かった。これらの偏りは、回答者全体の分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかし、クロス集計やグループの平均などの層化を行った集計では、影響は限定されると考えられる。

表2.1.1 回答者と母集団の比較 2005.10 末日時点

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
回答者	19.3%	72.1%	5.0%	3.6%	100% (140)
湘南キャンパス学生	24.4% (747)	26.1% (799)	23.2% (727)	25.8% (790)	100.0% (3063)

(注) 母集団は文教大学湘南キャンパス学生(2005.10末日時点)である。

表2.1.2 回答者と母集団の比較 2005.10 末日時点

	男性	女性	合計
回答者	47.9%	52.1%	100.0% (140)
湘南キャンパス学生	56.5% (1730)	43.5% (1333)	100.0% (3063)

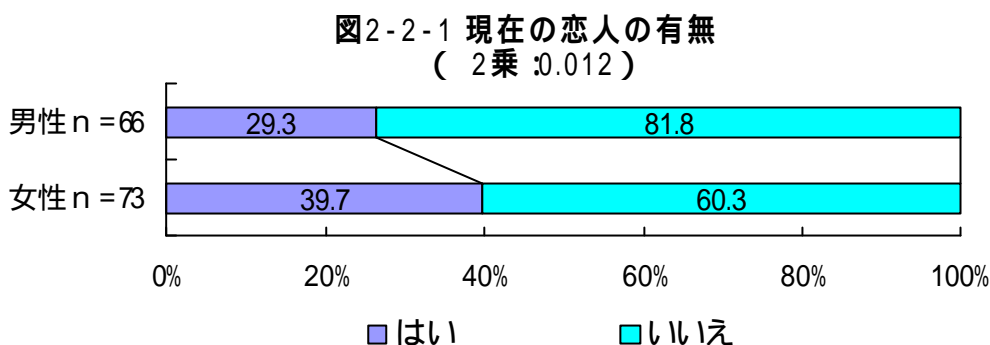
(注) 母集団は文教大学湘南キャンパス学生(2005.10末日時点)である。

### 2.2 性別による恋愛経験や恋愛観の違い

私たちは日常経験則によって恋愛経験や恋愛観というものは男女によって違いがあることを認識しているが、今回の調査で具体的な数値として現れた。ここでは特に違いの現れたものについて記述する。

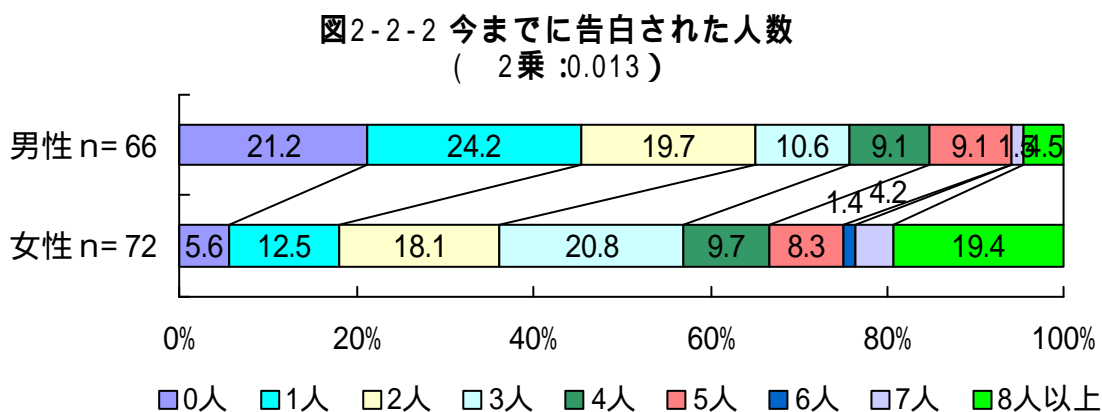
・ 現在の恋人の有無

図 2-2-1 は現在の恋人の有無を男女別に集計したグラフである。男性の約 30%、女性の約 40% に恋人がいるのが分かる。



・ 今までに異性に告白された人数

図 2-2-2 は、今までに異性に告白された人数を男女別に集計したグラフである。この結果を見ると、0人と答えた女性が女性全体の約 6% であるのに対し、0人と答えた男性は男性全体の約 21% という女性の約四倍の比率であることがわかった。これは告白された異性の人数が 1 人の時も女性が女性全体の約 13% であるのに対し、男性は約 24% になった。反対に 8 人以上の異性から告白されたことがあると答えた女性は約 19% もの回答があったのに対し、男性では約四分の一の約 5% にしかなかった。男性は女性に告白をし、女性はそれを待つという恋愛の形が昔に比べ恋愛に対し柔軟と言われる現在の大学生にもあてはまるのがわかる。



・ 希望の交際のきっかけ

図 2-2-3 は異性との希望の交際のきっかけ ( 始まり ) を回答してもらったグラフである。これによると女性全体の 63.0% もの人が相手から告白されて交際をスタートしたいと望み、男性の 41.8% が自ら相手に告白をして交際をスタートさせたいと望んでいる。

図2-2-3 希望の交際のきっかけ  
( 2乗 :0.000 )

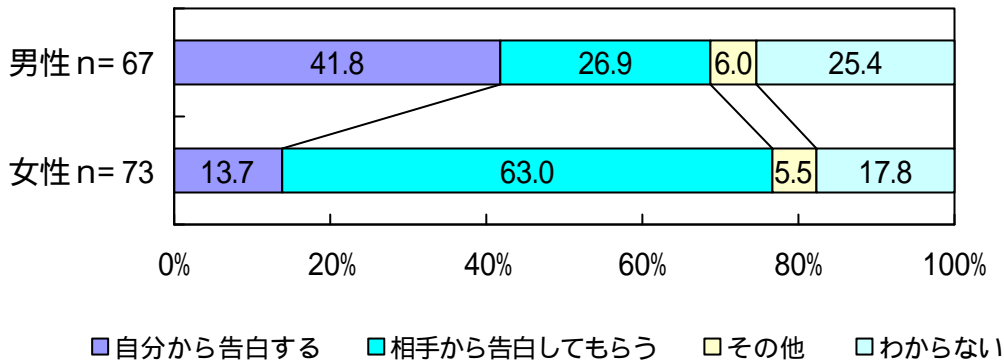


図 2-2-2、図 2-2-3 がこのような結果となった背景としては現在の日本であっても男性が告白をするもの、女性は告白されるものという性役割観のステレオタイプが存在していることもあるだろう。また、考えられることとしては女性が恋愛での主導権を潜在的に握りたがっているとも考えられる。男性から告白してきたということは女性にとって一種の強みである。なぜならば、告白をしたくなるというほど恋愛にのめり込んでいるという形を作り上げておけば、女性は別れをちらつかせることによって男性をコントロールすることができる。このようなことは社会心理学者・松井豊（松井 1993 年）も言及している。

#### ・異性に好意を寄せる際の重要項目

図 2-2-4 は異性に好意を寄せるにあたって何がどの程度重要であるかを「1. 重要である」、「2. やや重要である」、「3. どちらともいえない」、「4. あまり重要ではない」、「5. 重要でない」の5段階評価で回答してもらい、その回答の平均値をグラフにしたものである。

全体的な傾向として女性の方が男性よりも重要度を高く回答した。結果として恋人の選択基準が男性より女性の方が厳しいといえるだろう。そして男性は女性より容姿を重要視するという結果は、松井豊（1993）のうちに記載されていた詫摩（1973）の研究結果にも同様のものがあつた。「結婚にあたって重視する項目」で、男性は「顔立ち」「スタイル・身長」を重視する傾向があるという結果が出ている。このような研究結果が発表されていることから今回の調査では有意差は出でなかったが信憑性は高い。

男女を通してもっとも重要度が高い項目は男女合計の平均値 1.44 の「優しい人である」であつた。男性も女性も恋人を選ぶにあたってもっとも重んじる点は優しさであるということになった。次に「常識がある」「明るい人である」「趣味や価値観が合う」など内面性の重要度を訊ねた項目が続いた。このことから異性に好意を寄せる際には内面を重んじる傾向にあるといえる。

図2-2-4 異性に好意寄せる際の重要項目

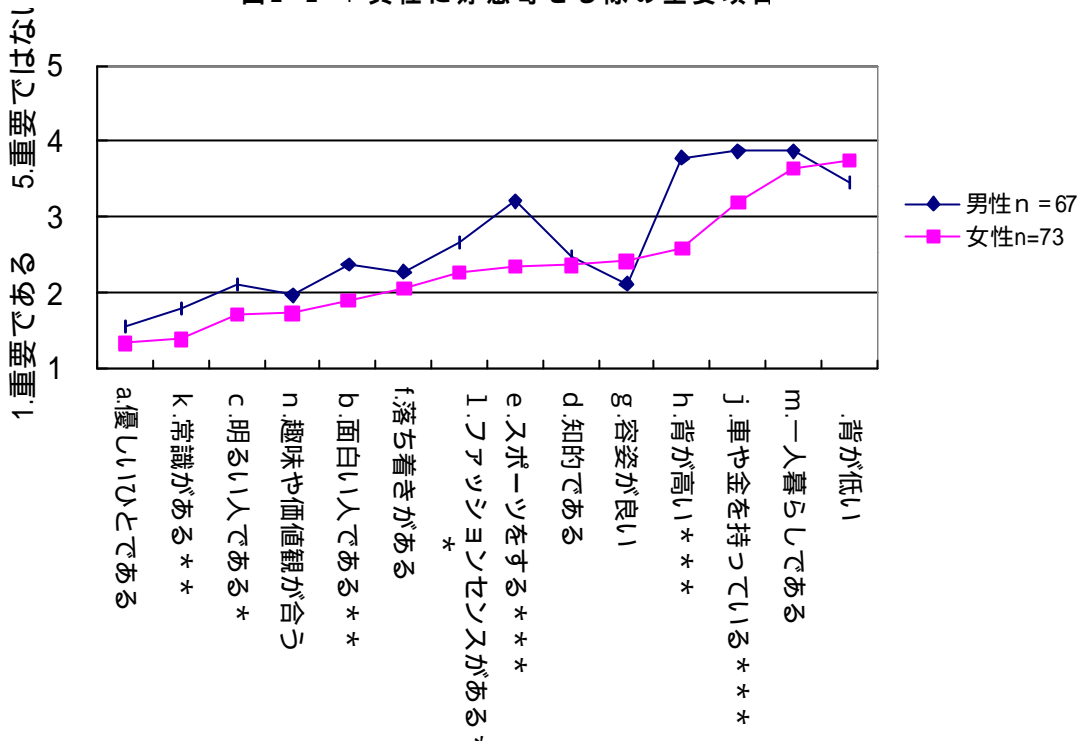


表2-2-1は異性に好意を寄せる際の重要性を計った14項目(図2-1-4で利用)の理解を促すため、これに対して因子分析を適用し、四つの因子に定義することによって評価項目ごとの共通性を見出した。

表2-1-1 異性に好意を寄せる際の評価項目の因子の定義

因子(平方和、寄与率)	因子の内容
第1因子(2.3、16.7%) fac41: 内面因子	a. 優しい人である    b. 面白い人である c. 明るい人である    n. 趣味や価値観が合う
第2因子(2.3、16.5%) fac42: 付加価値因子	j. 車や金を持っている    m. 一人暮らしであること    h. 背が高い E. スポーツをすること    i. 背が低い
第3因子(1.9、13.9%) fac43: 知的因子	d. 知的である    f. 落ち着きがある    k. 常識がある
第4因子(1.6、11.7%) fac44: 外見因子	g. 容姿が良い    l. ファッションセンスがある

(注) 平方和と寄与率はバリマックス回転後の値である。寄与率の合計は58.8%である。



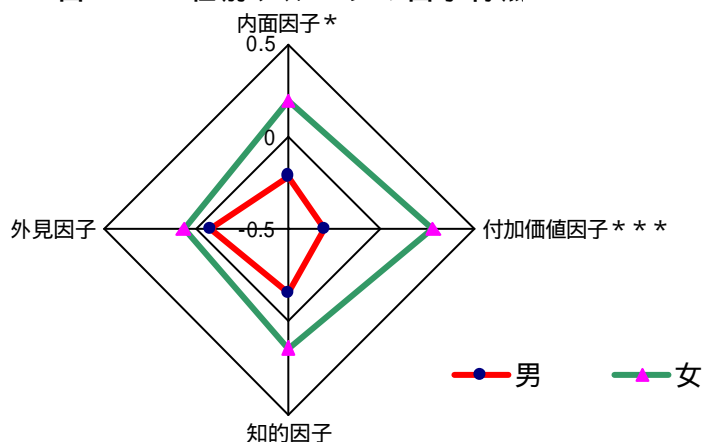
第1因子は「優しい人である」「面白い人である」「明るい人である」「趣味や価値観が合う」という好意を寄せる際の内面の重要度を聞いた4項目をまとめて、「内面因子」とした。第2因子は「車や金を持っていること」「スポーツをすること」「一人暮らしであること」「背が低い」「背が高い」という経済性や身長などの重要度を聞いた5項目を、「付加価値因子」とした。第3因子は「知的である」「落ち着きがある」「常識がある」という知力や常識などの重要度を聞いた3項目を、「知的因子」とした。第4因子は「容姿がよい」「ファッションセンスがある」という見た目の重要度を聞く2項目を、「外見因子」とした。

図2-2-5は、定義した因子を使って性別ごとの平均値を出したグラフである。ここでは全体の平均を0とし、1に近いほど性別の合計の平均より傾向が強い(ここでは重要であるということ)を表し、-1に近いほど傾向が弱い(ここでは重視しないということ)を表している。

全体的な傾向として女性の方が全ての因子について傾向が強いことがわかる。その中でも男女間で有意差が表れたものは付加価値因子であった。次いで有意差が強く表れたものは内面因子であった。知的因子、外見因子には有意差が表れなかった。

全体的な傾向、特に付加価値因子や内面因子に男女差がこのような表れるのは女性が無意識の内に結婚を意識しているのではかという話がある。現状、女性は結婚する相手によって、地位、収入、生活状態が変わってしまう。さらに女性は結婚適齢期が男性より短いので慎重に相手を見定めるといふ行為がこの結果になったのではないだろうか。反対に男性がこのような傾向になるのは結婚しても社会に出て仕事し、女性を養うという考え方が当然とされているからではないだろうか。近年、結婚後も働くという女性も増えているが、寿退社をするという男性を聞いたことがない。これは性別分業の意識が未だに我々の心に潜んでいることの表れであるとも言えるだろう。

図2-2-5 性別グループの因子得点



・異性に人気のある同性のイメージ

図 2-2-6 は異性に人気のある同性のイメージの回答をグラフ化したものである。「容姿が良い」「優しい人である」「明るい人である」の項目では当てはまると答える割合が高く、また男女による有意差は現れなかった。これは「社会的に望まれる性格」というものが性別に関係なく重要であるということを示している。「社会的に望まれる性格」が好意を抱く段階で重要だということは先人の研究でも述べられているのでこの結果は妥当であると言える。

男女間で高い有意性が出た「スポーツをする」「背が高い」「車やお金を持っている」は図 2 2 4 でも高い有意差が出ていた。例えば、図 2 2 4 の「異性に好意を寄せる際の重要項目」の「スポーツをする」という項目では男性平均値 3.21、女性平均値 2.34 であった。対して図 2 2 6 の「異性に人気のある同性のイメージ」での「スポーツをする」という項目では男性平均値 1.99、女性平均値 2.88 であった。このことから男性も女性も異性の好みの大枠というものを認識しているということになる。

図2-1-6 異性に人気のある同性のイメージ

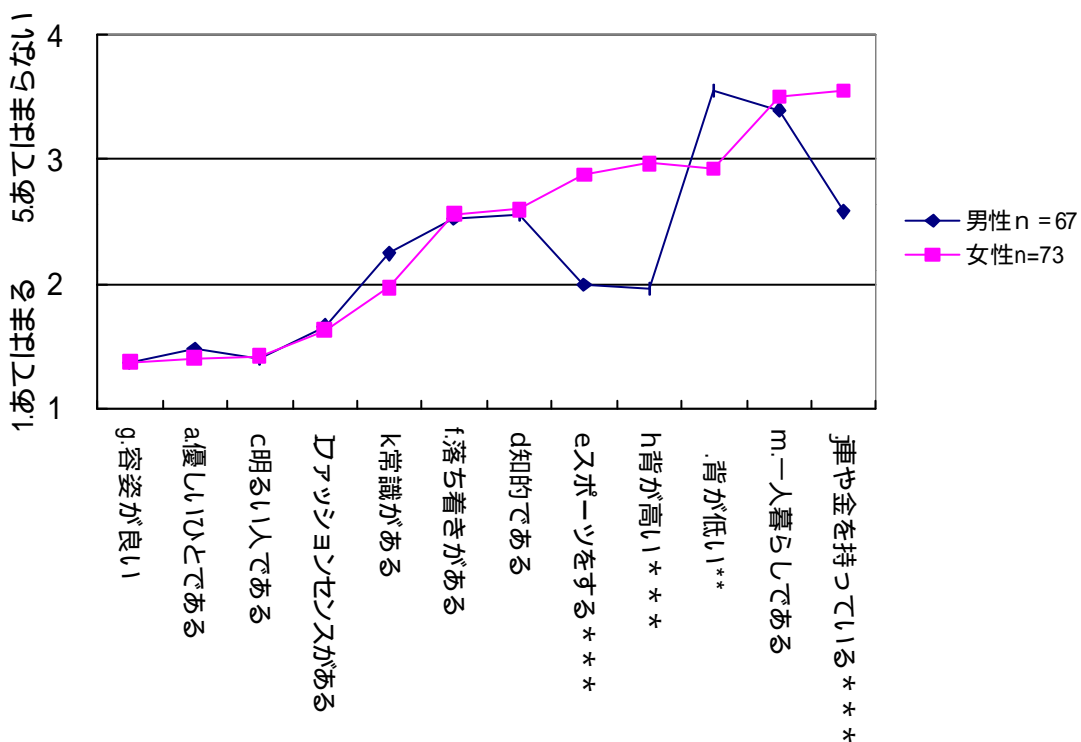


表 2- 1- 2 は異性に人気のある同性のイメージを聞いた 13 項目を 5 個の因子に定義したものである。

表 2- 1- 2 異性に人気のある同性のイメージの因子の定義

因子( 平方和、寄与率)	因子の内容
第 1 因子 ( 2.5、 19.4% ) fac51 : 人気男 性像因子	h . 背が高い j . お金や車を持っている e . スポーツをする
第 2 因子 ( 2.1、 16.0% ) fac52 : 知的因子	f . 落ち着きがある d . 知的である k . 常識がある
第 3 因子 ( 1.8、 13.7% ) fac53 : 内面因 子	c . 明るい人である b . 面白い人である a . 優しい人 である
第 4 因子 ( 1.3、 10.3% ) fac54 : 人気女 性像因子	i . 背が低い m . 一人暮らしである
第 5 因子 ( 1.3、 10.0% ) fac55 : 外見因子	g . 容姿がよい l . ファッションセンスがある

(注) 平方和と寄与率はバリマックス回転後の値である。寄与率の合計は 69.3% である。

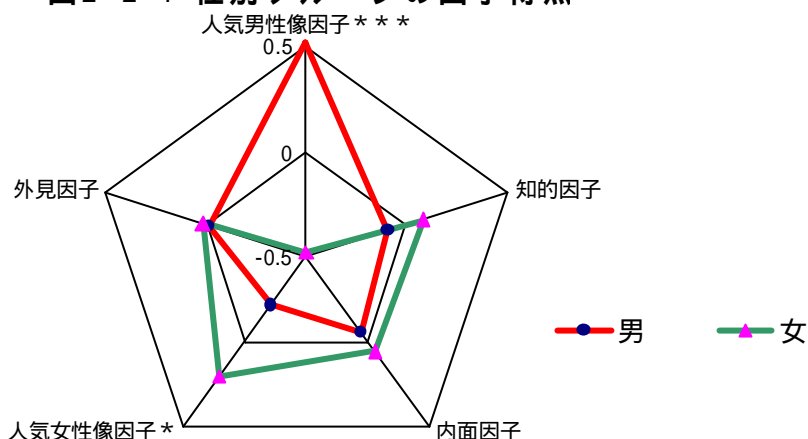
第 1 因子は「背が高い」「お金や車を持っている」「スポーツをする」という 3 項目を「人気男性像因子」と定義した。第 2 因子は「落ち着きがある」「知的である」「常識がある」という 3 項目を「知的因子」と定義した。第 3 因子は「明るい人である」「面白い人である」「優しい人である」という内面性を聞いた 3 項目を「内面因子」と定義した。第 4 因子は「背が低い」「一人暮らしである」という項目を人気女性像因子とまとめた。第 5 因子は「容姿がよい」「ファッションセンスがある」という外見を問う 2 項目をまとめ、「外見因子」と定義した。

図 2-2-7 は、定義した因子を使って性別ごとの平均値を出したグラフである。ここでは全体の平均を 0 とし、1 に近いほど性別の合計の平均より傾向が強いこと（ここではイメージに当てはまるということ）を表し、-1 に近いほど傾向が弱い（ここではイメージに当てはまらないということ）を表している。

これを見ると男女間でもっとも差のある因子は人気男性像因子であった。次いで人気女性像因子であった。知的、内面、外見因子には優位差を見ることはできなかった。このことから、男女とも基本的な部分では異性に人気がある同性像に差がないが、男性は金銭面や運動神経など他の要素も必要とされるが女性はあまり必要とされないという

ことである。しかしそれは、男性は内面や外見などを他の要素でカバーすることによって異性に人気のある同性像に自分を近づけることは可能であるということ、そして女性は外見や内面などの部分でのみしか評価されないということの表れではないか。

図2-2-7 性別グループの因子得点



### ・ 2 . 2 節のまとめ

全般的に男性よりも女性の方が恋愛経験が豊富であることが異性との交際人数や被告白人数からわかった。そして男性と女性では恋愛に対しての考え方に差があることがわかった。それは「異性に好意を抱く際の重要項目」では全般的に重要であると答える傾向が強く表れたり、「人気の同性のイメージ」では女性が望むものに反映されて「スポーツをする」「お金や車を持っている」等で男性に強い傾向が表れる。このことから男女間で恋愛観がフィードバックされ、より男女で恋愛観に差が表れてくるのであろう。

### 2 . 3 告白された人数による行動や恋愛観の違い

ここからは異性に告白をうける経験人数によって、行動や恋愛観に差があるものなのかを調べた。告白された経験人数を0~2人までの経験人数の少ないグループと3人以上の経験人数が多いグループの二区分に分けて統計を行った。図2-2-2の結果、概して男性に比べ女性の方が告白される人数が多かったのでここに男女比を記すと、経験人数の少ないグループの男女比率は約2:1、経験人数の多いグループの男女比率は約1:2となった。

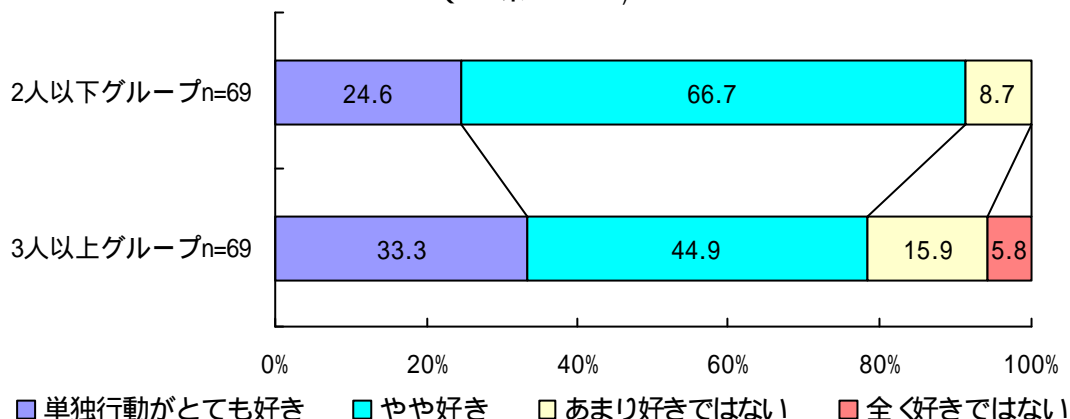
### ・ 被告白人数別の単独嗜好性

図2-3-1は被告白人数グループ別に見た単独行動性のグラフである。これをみると、告白されたことのある異性の人数が少ないグループでは9割以上の人々が、「好き」または「やや好き」と答えたのに対し、人数の多いグループでは8割弱であることがわかる。それに加えて、少ないグループでは1人もいなかった「全く好きではない」という回答

が多いグループでは5.8%もいることがわかった。しかもこの「全く好きではない」と答えた回答者の全員が告白されたことのある異性の人数が8人以上であった。

この結果から単独行動派でない方が告白される人数は多い。考えられる理由として単独行動派でない方が、人との交友が増え、結果として告白される回数が増えると言える。

図2-3-1 被告白人数グループ別の単独行動性  
( $\chi^2$ :0.026)

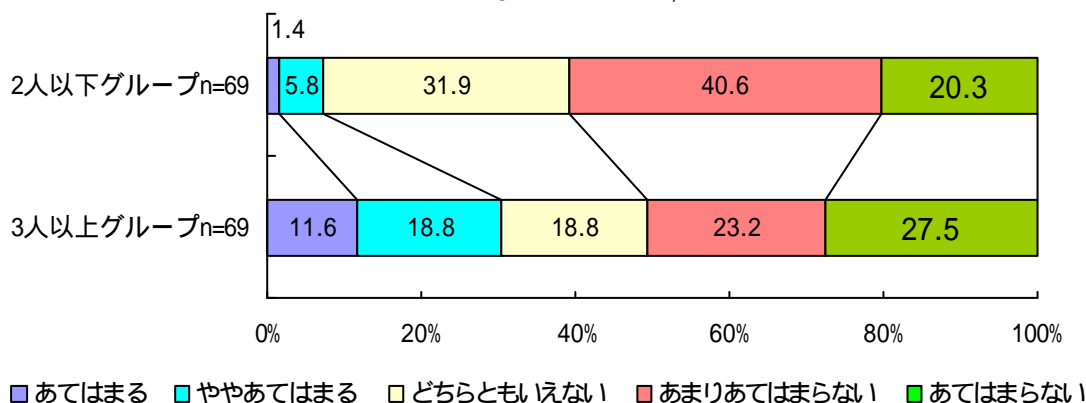


#### ・被告白人数別の恋愛ゲーム嗜好性

図2-3-2は、恋愛はゲームのように楽しみたいという恋愛観と告白された経験人数との関係をグラフ化したものである。経験人数の少ないグループでは「あてはまる」と答えた人は1.4%対し、経験人数の多いグループでは11.6%もの回答があった。この傾向は「ややあてはまる」の回答でも顕著に現れた。この結果、告白された人数が多くなると恋愛にゲームのように楽しみたいと考える指向が強くなるといえる。

理由として考えられることとして、告白される経験が多い人は恋愛が日常的になり、マンネリ化しているために、ゲームのような恋愛に興味を湧いているのだと考えられる。

図2-3-2 被告白人数グループ別恋愛ゲーム指向性  
( $\chi^2$ :0.002)



## 2.4 異性交際人数による恋愛観や行動の違い

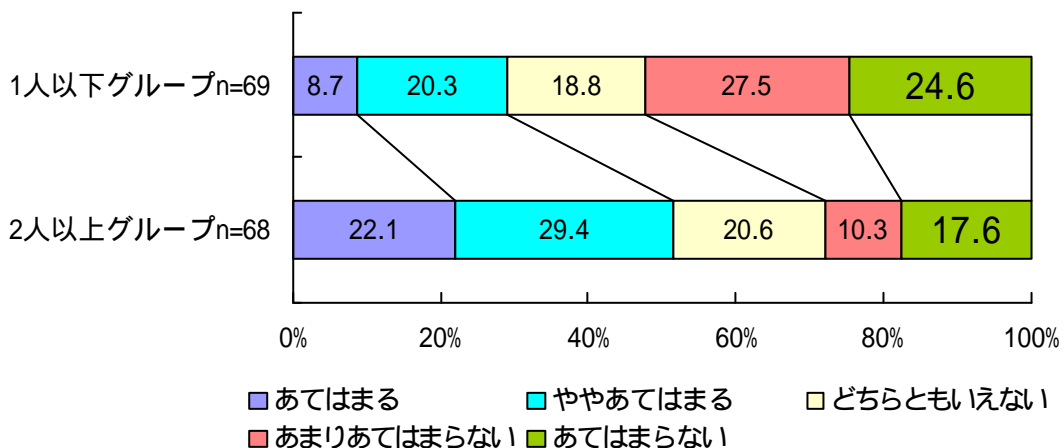
ここからは異性と付き合ったことのある経験人数によって、行動や恋愛観に差があるものなのかを述べる。付き合った経験人数 0～1人までの経験人数の少ないグループと2人以上の経験人数が多いグループの二区分に分けて統計を行った。経験人数の少ないグループの男女比率は約6：4、経験人数の多いグループの男女比率は約4：6となった。

### ・異性交際人数別の一目ぼれ指向

図2-4-1は異性との交際人数と一目ぼれをするほうであるという恋愛観との関係をグラフ化したものである。「あてはまる」と答えた人数は1人以下の交際人数の少ないグループで8.7%であるのに対し、2人以上の交際人数の多いグループで22.1%と大きな差がでた。「ややあてはまる」と答えた回答者も含めると、少人数グループでは約30%であったのに対し、多人数グループでは50%以上であった。これによると付き合った人数が多いほど一目ぼれをする傾向が強いということがわかる。

理由として考えられることとして、付き合った人数が多いほど一回の恋愛に対する慎重さがなくなったため、一目ぼれをしやすくなったと言える。恋愛はゲームのように楽しみたいという恋愛観にあてはまると回答した人数も多人数グループの方で多く現れたことも付き合った人数によって恋愛に対する考え方がフランクになっていくという考えを裏付ける理由の一つである。

図2 4 1 異性交際人数別の一目ぼれ指向 ( 2乗 :0.023



・異性交際別の異性に人気のある同性のイメージ

図2-4-2は異性に人気のある同性のイメージの回答の平均値を付き合った人数別でグラフ化したものである。全体的に付き合った人数の多いグループは少ないグループに比べて「あてはまる」と答える傾向にあり、付き合った人数が増えると異性に人気のある同性のイメージも、向上することがわかる。有意差が出た項目は「優しい人である」「常識がある」「一人暮らしである」の三つであった。これは付き合った経験の中での失敗から導き出されたものなのではないだろうか。異性と良好な関係を保ちながら付き合う為には優しさと常識が重要であると身を持って経験し、「異性に人気のある同性」という一種の理想に反映したのではないだろうか。特に、「一人暮らしである」という項目で有意差がでたことも興味深い。大学生の恋愛ともなると交際する異性とのスキンシップや性交渉を望んだり、望まれたりすることもある。しかし、ホテルなどで行うことにも金銭面など限界があるため、家で行う必要性が出てくる。しかし親と同居の場合、親の目を気にしなければならぬし、自分たちの都合に合わせて気軽に一晩泊めるなどの利便性にも優れない。このようなことから理想の反映ということが言えるのではないだろうか。

図2-4-2 異性交際人数別の人気同性イメージ

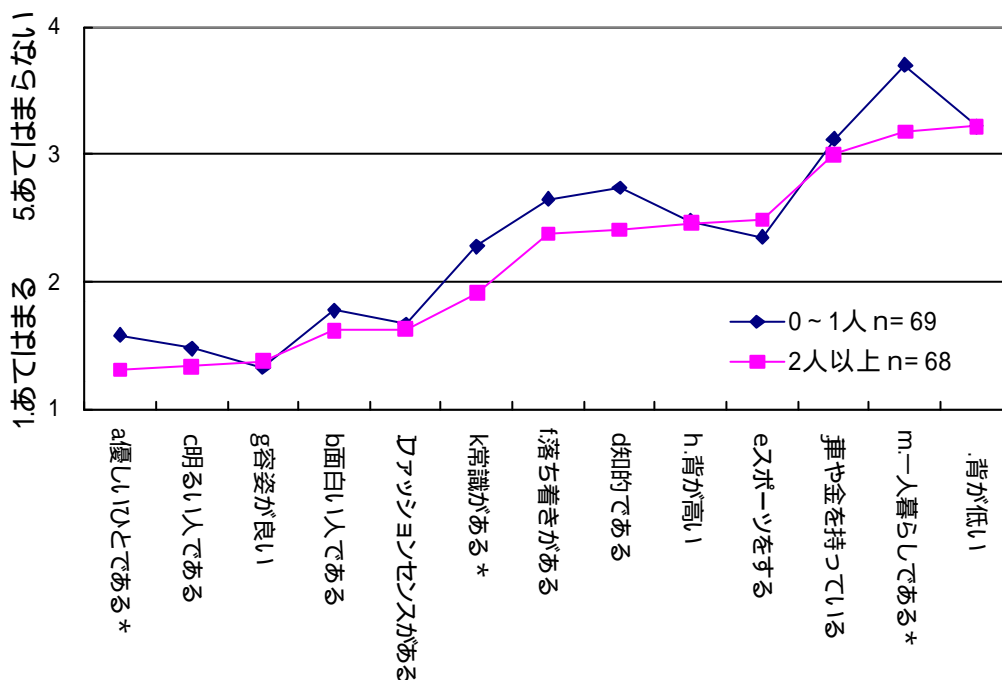
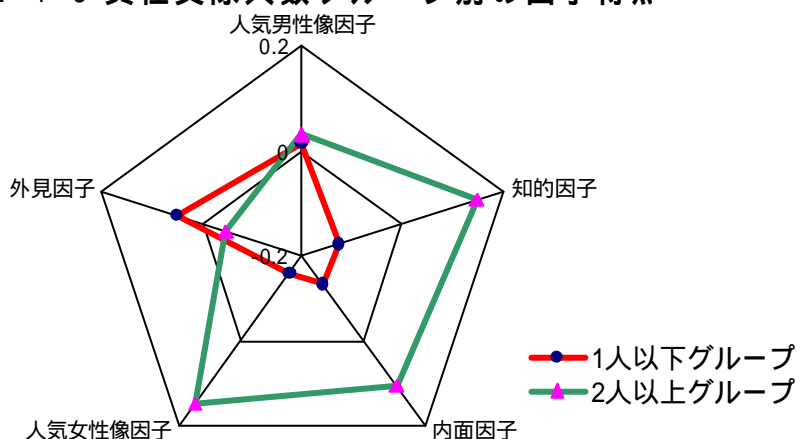


図2-4-3は表2-1-2で定義した因子を使って性別ごとの平均値を出したグラフである。ここでは全体の平均を0とし、1に近いほど性別の合計の平均より傾向が強いこと（ここではイメージに当てはまるということ）表し、-1に近いほど傾向が弱い（ここではイメージに当てはまらないということ）を表している。

「人気男性像因子」についてはほぼ同じ値を付けていたのに対して「知的因子」「内面因子」「人気女性像因子」では二人以上グループに強い傾向が表れた。「外見因子」については若干、一人以下グループに強い傾向が表れた。このことから異性との交際人数が増えると、外見よりも内面の重要性に気付き、「異性に人気のある同性のイメージ」も内面性をより重視する傾向になる。

しかし、全ての項目において有意差を求めることはできなかった。

図2-4-3 異性交際人数グループ別の因子得点



## 2.5 自尊心の高低による恋愛観や行動の違い

本研究では自尊心の高低によって恋愛観や行動に違いが現れるのかを調査している。自尊心をローゼンバーグ (Rosenberg, M., 1965) は、自己に対しての肯定的または否定的態度であるとした。さらにローゼンバーグは、自尊心について、自分を「非常によい (very good)」と捉える場合と「これでよい (good enough)」と捉える場合の二つの異なる意味を指摘した。今回の調査では後者の立場を採用した。この調査で自尊心が高いということは、他者と比較して優越感などを感じるのではなく、自分自身の価値基準に照らして自分を価値のある人間であると尊重することである。



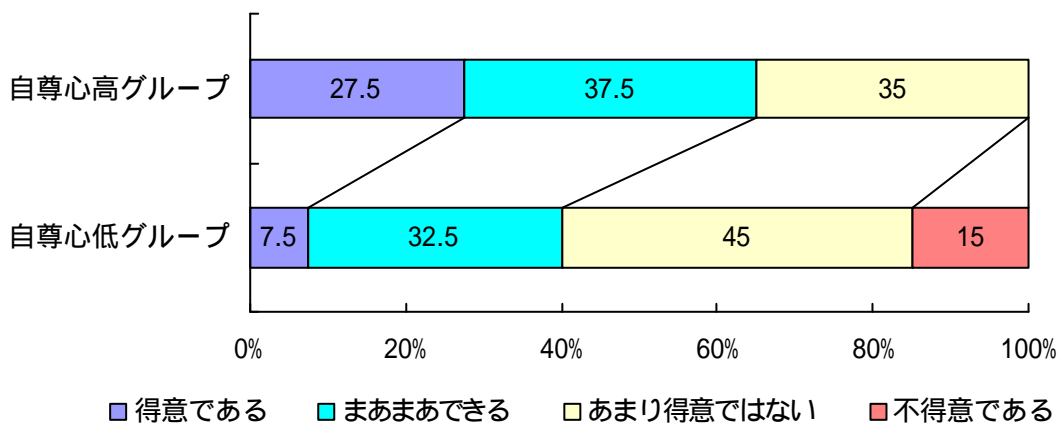
今回利用した自尊心の測定尺度はローゼンバーグが後者の立場に立って作成した10項目と外見の自己受容性と性格の自己受容性を測る項目を各1項目、計12項目の回答を得点化し、その合計で自尊心の高い方から40人、低い方から40人の2グループを作成した。男女比はほぼ半々である。

全体を通してみると自尊心の高低は、今までに取り上げてきたような、性別、異性に告白された人数、付き合った人数の違いほど明確な差は現れなかったが、その中でも有意差を得られたものを紹介する。

・自尊心高低グループ別の初対面会話指向

図2-5-1は「初対面の人との会話は得意か?」という問と自尊心の2グループでクロス集計したものである。自尊心高グループでは「得意である」との答えが27.5%であったのに対し、自尊心低グループでは7.5%であった。反対に自尊心高グループでは「不得意である」との回答は0%であったのに対し、自尊心低グループでは15%回答があった。この結果から自尊心の高低で初対面の人とのコミュニケーション能力に差が出るのが分かった。

図2 5 1 自尊心グループ別の初対面对話指向  
( 2乗 :0.011)



・自尊心高低グループ別の異性に好意を寄せる際の重要項目

図 2-5-2 は異性に好意を寄せる際の重要性の平均値を自尊心の高低グループ別でグラフにしたものである。全般的に類似した傾向を辿るが 2 つの項目に有意差がある。それは「面白い人である」と「知的である」という項目であった。自尊心高グループでは「知的である」という項目を重要視し、自尊心低グループでは「面白い人である」という項目を重要視する傾向にある。また「優しい人である」も自尊心低グループが重要視する傾向にある。平均値では有意差は現れなかったが自尊心の高低グループで行ったクロス集計では有意差が現れた。

このことから自尊心低グループは自尊心高グループより内面を重視することが分かる。この理由の一つに、受容の可能性があるだろう。自尊心の低い人は自己に対する自信がない。そのことが異性との関係を築く際に、「こんな自分を好きになってくれる人はいるのだろうか」という思考に至る。しかし、内面が優れている異性ならば自分を受容してもらえる可能性があるのではということから異性に好意を寄せる際にあたっての内面の重要度が上がったのではと考えられる。

図2-5-2 異性に好意寄せる際の重要項目

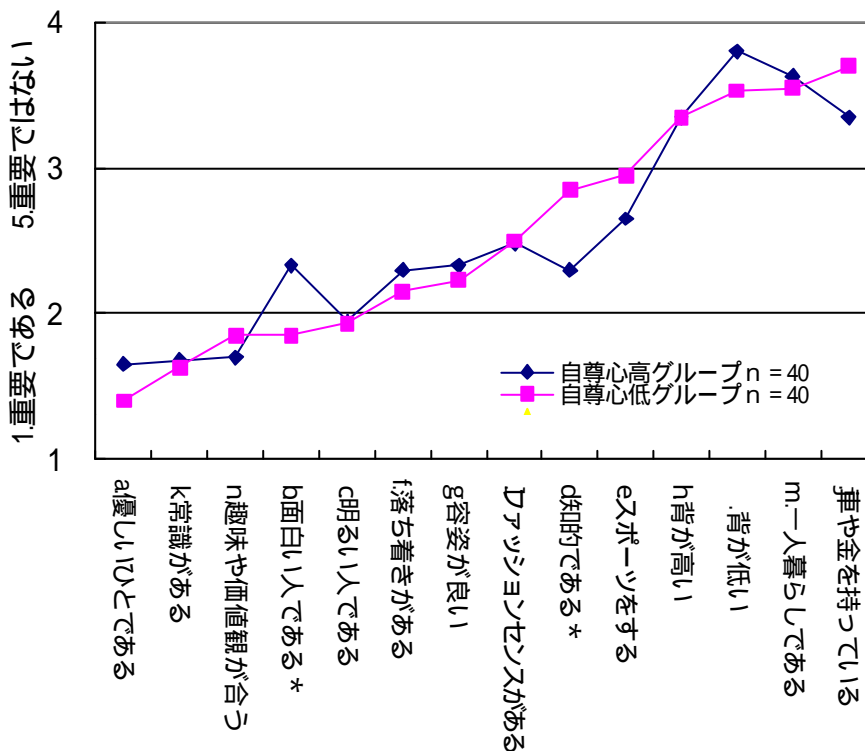


表 2-5-1 は調査で行った自尊心測定 の 12 項目に対して因子分析を適用し、4 個の因子を抽出した結果である。

表 2-5-1 自尊心測定項目の因子の定義

因子(平方和、寄与率)	因子の内容
第 1 因子 (2.6、21.3%) fac4 1 : 自己否定因子	i. 自分は役立たずな人間だと時々感じる j. 自分はダメな人間だと思うことが時々ある e. 誇りに思っていることがあまりない c. 自分を失敗者だと感じるが多い
第 2 因子 (2.5、20.8%) fac42: 自己肯定因子	a. 人並みに価値がある人間だと思う b. 長所をたくさん持っている f. 自分を見込みある人間だと見ている d. 物事を人並みにできる
第 3 因子 (2.1、17.3%) fac43: 総合満足因子	g. 自分に大体満足している k. 容姿に大体満足している l. 性格について嫌な所がたくさんある
第 4 因子 (1.0、8.6%) fac44: 尊敬願望因子	h. 自分をもっと尊敬できたらと思う

(注)平方和と寄与率はバリマックス回転後の値である。寄与率の合計は67.9%である。

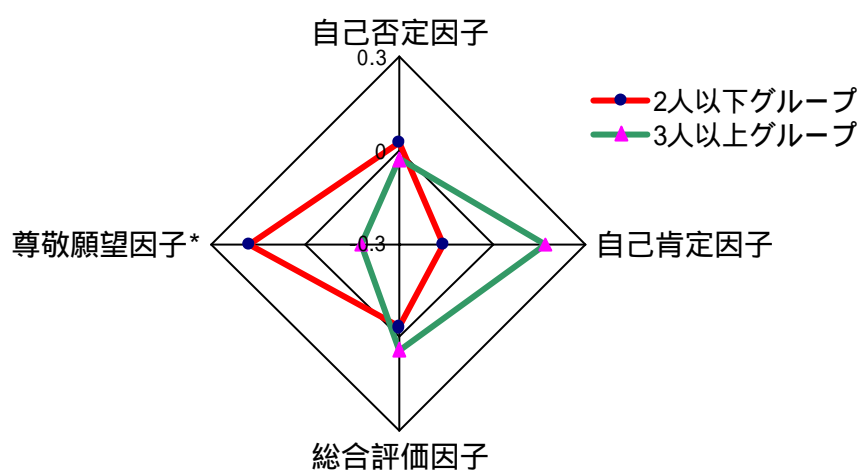
第 1 因子は「自分は役立たずな人間だと時々感じる」「自分はダメな人間だと思うことが時々ある」「誇りに思っていることがあまりない」「自分を失敗者だと感じるが多い」という、自己否定的な感情を聞く項目が集まったので「自己否定因子」と定義した。第 2 因子は「人並みに価値がある人間だと思う」「長所をたくさん持っている」「自分を見込みのある人間だと見ている」「物事を人並みにできる」という自己肯定的な感情を聞く項目が集まったので「自己肯定因子」とした。第 3 因子は「自分について大体満足している」「自分の容姿に大体満足している」「自分の性格について嫌なところがたくさんある」という、容姿なども含めた内面以外の自己の総合満足度の評価の因子であるとして「総合満足因子」と名づけた。第 4 因子は「自分をもっと尊敬できたらと思う」という項目だけなので「尊敬願望因子」とした。

図 2-5-3 は、表 2-5-1 で定義した 4 因子を使って異性に告白された人数 2 区分の平均値を出したグラフである。ここでは全体の平均を 0 とし、1 に近いほど合計の平均より傾向が強いということを表し、-1 に近いほど傾向が弱いということ表している。

被告白人数が少ないグループと多いグループの違いで尊敬願望因子と自己肯定因子に大きな差が現れた。尊敬願望因子では被告白人数が少ない(2人以下)グループで強い傾向が、自己肯定因子で被告白人数が多い(3人以上)グループで強い傾向が現れた。自己否定因子、総合満足因子では二つのグループに大きな差は見られなかった。

この結果から被告白人数が多いということは、自己への肯定的感情を高めるということが言える。しかし、自己への否定的感情を減らす作用はあまりないようである。被告白人数の多さは人間の自尊心を高めることはまず間違いないが、マイナスの感情をなくすものではなくプラスの感情で覆い隠すという図式である。言い換えれば自己否定な感情は誰もがほぼ同じように持っているということなる。

図2-5-3 被告白人数グループ別の因子得点



### 3章．まとめと今後の課題

今回調査した結果によると恋愛観にもっとも影響を与える要因は性別の違いであった。これは異性に好意を寄せる際の重要性を平均値化したグラフで14項目中、7項目に有意差が見られたことから言える。なぜこのような結果になったのか。そこにはジェンダーの問題があると思う。「男は男らしく堂々とするべきである」、「女は女らしくしおらしくしているべきだ」などという思想が、男女の平等が叫ばれる時代であっても我々の中に根強くあり、それにより恋愛感が意識、無意識を問わず変わっていくのである。

女性の恋愛感の特徴として「金銭や、将来性なども重視する」という傾向があるのも男女の役割分担などの思想が生み出したものであるといえる。「現状、女性は結婚する相手によって、地位、収入、生活状態が変わってしまう」ということは先にも触れているが、このようなことがある今の日本社会は真の男女平等の社会であるとは思えない。

そのように歪んだ性別観が基本軸にあり、付き合った人数や告白された人数自尊心など多くの要因が絡み合っただけで恋愛感というものが形成されていくということがわかった。

今後の課題としてはジェンダーの意識を聞く項目を作り、ジェンダーの意識の違いが恋愛感にどう影響を及ぼしているのかを調べることをあげたい。恋愛に関する学術的研究があまり見つからず、資料が乏しかったことも問題であった。調査用紙作成時の問題として、記号のミスなど細かいミスがあったのも今後注意したい。

#### 参考文献

「恋ごろの科学」 松井豊 サイエンス社 1993

「大学生の自尊心と関連する諸要因に関する研究」 豊田加奈子・松本恒之  
東洋大学人間学科総合研究所紀要創刊号 2004

恋愛アンケート・女と男の辞典 <http://woman110.com/dic/index.htm>

All AboutHP <http://allabout.co.jp/relationship/love/>

オーネット HP <http://www.onet.co.jp/cnt00/company/activity/kotobuki.html>

## 大学生の恋愛観と自己観に関する調査

情報学部広報学科 3年 橋本耕平

ゼミ研究のために調査をしています。ご協力をお願いします

配布数 144                      回収数 142                      有効回答数 140

問1．現在あなたに付き合っている恋人はいますか。(1つだけ) n=140

はい 29.7	いいえ 70.0	無回答 0.7
---------	----------	---------

問2．あなたは今までに何人の異性とお付き合いをしたことがありますか。(1つだけ) n=140

0人 問3に進んでください 27.1	1人 22.1	2人 16.4	3人 13.6	4人 9.3	5人 5.0
6人 2.9	7人 0.0	8人以上 2.1	無回答 2.1		

(1) あなたのもっとも長く付き合った異性とはどのくらいの期間付き合っていましたか、またはいますか。(1つだけ) n=100

3ヶ月未満 10.0	3～6ヶ月以内 27.0	6～9ヶ月以内 18.0	9ヶ月～1年以内 13.0
1年～1年半以内 12.0	1年半～2年以内 10.0	2年以上 10.0	

問3．あなたは今までに何人の異性に告白をされたことがありますか。(1つだけ) n=140

0人 12.9	1人 17.9	2人 18.6	3人 15.7	4人 9.3
5人 8.6	6人 0.7	7人 2.9	8人以上 12.1	無回答 1.4

問4．あなたが異性を好きになる際、相手の何が重要であると思いますか。(項目ごとに1つだけ) n=140

	1.重要である	2.やや重要である	3.どちらともいえない	4.あまり重要ではない	5.重要ではない
A. 優しい人であること	67.9	25.0	5.0	0.0	2.1
B. おもしろい人であること	30.7	41.4	17.9	5.0	5.0
C. 明るい人であること	41.4	37.9	12.1	6.4	2.1
D. 知的であること	20.0	36.4	30.0	9.3	4.3
E. スポーツをすること	13.6	32.9	27.1	17.1	9.3
F. 落ち着きがあること	26.4	44.3	17.9	9.3	2.1
G. 容姿が良い	25.0	38.6	22.9	11.4	2.1
H. 背が高い	12.9	19.3	31.4	12.9	23.6
I. 背が低い 無回答 2.1	6.4	7.9	39.3	14.3	30.0
J. お金や車を持っていること 無 0.7	2.1	18.6	31.4	22.9	24.3
K. 常識があること	58.6	29.3	9.3	1.4	1.4
L. ファッションセンスがあること	14.3	40.0	33.6	10.7	1.4
M. 一人暮らしであること	5.0	7.1	30.7	22.1	35.0
N. 趣味や価値観が合うこと	40.0	45.7	8.6	2.1	3.6

問5．もしあなたが異性と交際を始めるとしたら、きっかけはどのようなものを望みますか。(1つだけ) n=140

自分から告白する 27.1 相手から告白してもらおう 45.7 その他 5.7 わからない 21.4

問6．あなたが異性を好きになる際、初めはどこの部分に魅かれることが多いですか。(1つだけ) n=140

容姿 28.6 ファッション 2.9 お金や物 1.4 内面 11.4  
 学歴 0.0 雰囲気 51.4 その他 0.7 そのような経験がない 2.9 無回答 0.7

問7．「異性に人気がある同性」とはどのようなイメージですか。(項目ごとに1つだけ) n=140

	1.あてはまる	2.ややあてはまる	3.どちらともいえない	4.あまりあてはまらない	5.あてはまらない
A. 優しい人である	65.7	27.1	5.7	0.7	0.7
B. おもしろい人である	53.6	30.0	10.7	4.3	1.4
C. 明るい人である	65.7	29.3	4.3	0.0	0.7
D. 知的である 無回答 0.7	14.3	37.1	31.4	11.4	5.0
E. スポーツができる	24.3	32.9	24.3	10.7	7.9
F. 落ち着きがある	15.7	35.0	32.1	13.6	3.6
G. 容姿が良い	70.7	22.1	7.1	0.0	0.0
H. 背が高い	27.9	21.4	32.9	10.0	7.9
I. 背が低い 無回答 1.4	10.0	12.1	42.1	17.9	16.4
J. お金や車を持っていること	10.7	24.3	27.9	20.0	17.1
K. 常識がある 無回答 0.7	31.4	40.0	20.0	5.0	2.9
L. ファッションセンスがある	45.7	45.7	7.9	0.0	0.7
M. 一人暮らしである	10.0	7.1	37.9	17.1	27.9

問8．あなたは下記のような恋愛観にあてはまる部分がありますか。(項目ごとに1つだけ)

	1.あてはまる	2.ややあてはまる	3.どちらともいえない	4.あまりあてはまらない	5.あてはまらない
A. 恋愛はゲームのように楽しみたい	6.4	12.1	25.0	32.9	23.6
B. 一目ぼれをするほうである	15.0	24.3	20.7	19.3	20.7
C. 恋愛はゆっくりと時間をかけていきたい	27.1	39.3	26.4	4.3	2.9
D. 愛する人のためなら全てを犠牲に すると思う	9.3	19.3	26.4	23.6	21.4
E. 恋人がいたら些細なことで喜んだり なやんだり嫉妬したりするはずである	38.6	25.7	25.7	6.4	3.6

	1.あてはまる	2.ややあてはまる	3.どちらともいえない	4.あまりあてはまらない	5.あてはまらない
F. 恋人を選ぶときは学歴や経済力や将来性も考慮する	7.9	24.3	32.9	21.4	13.6

問9. あなたは自分の故郷（もしくは一番長く住んだ土地）が田舎であったと思いますか。（1つだけ）n=140

はい 64.3	いいえ 22.1	どちらともいえない 13.6
---------	----------	----------------

問10. 現在あなたはサークルや部活に入っていますか。（1つだけ）n=140

文化系のサークルや部活に入っている 45.0	体育系のサークルや部活に入っている 24.3
サークルに入っていない 30.0	どちらにも入っている 0.7

問11. 現在アルバイトをしていますか。（1つだけ）n=140

している 80.7	していない 19.3
-----------	------------

問12. あなたは飲み会やコンパなどに誘われた場合どうしますか。（1つだけ）n=140

ほとんど参加する 26.4	時々参加する 46.4	あまり参加しない 25.0	全く参加しない 2.1
---------------	-------------	---------------	-------------

問13. あなたは初対面の人と話すことが得意ですか。（1つだけ）n=140

得意である 14.3	まあまあできる 40.7	あまり得意ではない 35.7	不得意である 9.3
------------	--------------	----------------	------------

問14. あなたは外出が好きですか。（1つだけ）n=140

とても好き 20.7	やや好き 58.6	あまり好きではない 19.3	全く好きではない 1.4
------------	-----------	----------------	--------------

問15. あなたは一人で行動することが好きですか。（1つだけ）n=140

とても好き 28.6	やや好き 56.4	あまり好きではない 12.1	全く好きではない 2.9
------------	-----------	----------------	--------------

問16. あなたは他人に甘えられることに抵抗がありますか。（1つだけ）n=140

とても抵抗がある 2.9	やや抵抗がある 27.9	あまり抵抗がない 47.9	全く抵抗がない 21.4
--------------	--------------	---------------	--------------

問17. ファッション系の雑誌を読みますか。（1つだけ）n=140

よく読む 27.9	時々読む 34.3	あまり読まない 18.6	全く読まない 19.3
-----------	-----------	--------------	-------------

問18. ブランド物は好きですか。（1つだけ）n=140

とても好き 4.3	やや好き 37.9	あまり好きではない 40.0	全く好きではない 17.9
-----------	-----------	----------------	---------------

問19. あなたは流行を気にしますか。（1つだけ）n=140

とても気にする 11.4	やや気にする 53.6	あまり気にしない 25.7	全く気にしない 9.3
--------------	-------------	---------------	-------------



問20．あなたはアニメ・ゲーム等が好きですか。(1つだけ) n=140

とても好き 17.1 やや好き 39.3 あまり好きではない 34.3 全く好きではない 9.3

問21．あなた自身ついてうかがいます。(項目ごとに1つだけ) n=140

	1.よくあてはまる	2.ややあてはまる	3.どちらともいえない	4.あまりあてはまらない	5.まったくあてはまらない
A.少なくとも人並みに価値のある人間だと思う	20.0	40.7	29.3	6.4	3.6
B.長所をたくさんもっている	6.4	16.4	39.3	30.7	7.1
C.自分を失敗者だと感じるが多い	22.1	26.4	27.9	15.7	7.9
D.物事を人並みにできる 無回答 0.7	18.6	40.0	27.1	11.4	2.1
E.誇りに思っていることがあまりない	14.3	30.0	29.3	15.0	11.4
F.自分を見込みのある人間だと見ている	10.0	22.1	46.4	15.0	6.4
G.自分に大体満足している	7.1	17.1	27.9	27.9	20.0
H.自分をもっと尊敬できたらと思う	34.3	32.1	22.1	6.4	5.0
I.自分は役立たずな人間だと時々感じる	15.0	36.4	26.4	16.4	5.7
J.自分はダメな人間だと思うことが時々ある	23.6	37.1	20.0	14.3	5.0
L.自分の容姿に大体満足している	2.1	15.7	25.7	32.1	24.3
M.自分の性格について嫌なところがたくさんある	25.7	28.6	26.4	15.7	3.6

F1．性別 n=140

男 47.9 女 52.1

F2．学年 n=140

1年次 19.3 2年次 72.1 3年次 5.0 4年次 3.6

F3．血液型 n=140

A型 41.4 B型 19.3 O型 32.3 AB型 5.0 分からない 1.4

調査は以上です、ご協力ありがとうございました。